

I B C 番組審議会月報

2004年7月27日(火) 75 I B C 岩手放送

第490回 I B C 番組審議会・議事概要

- 1、開催 日時 平成16年7月27日(火)午前11時
- 2、開催 場所 I B C 放送会館 大会議室
- 3、委員の出席
委員数 14名
出席委員数 10名
出席委員の氏名
委員長 石川 桂司
副委員長 藤原 正紀
委員 阿部 价男・小苺米葉子・坂田 裕一
佐藤潤次郎・米谷 春夫・宮澤 徳雄
山崎 文子・吉沢 正則
欠席委員の氏名 熊谷志衣子・小松 務・中原 志郎
矢佐 俊幸
会社側出席者
小西 隆昭 代表取締役社長
阿部 正樹 代表取締役専務
佐藤 敏行 常務取締役
川島 敬司 常務取締役編成局長
井上 隆志 取締役技術局長
村上 憲男 報道制作局長
柴田 継家 報道制作局次長
事務局
金谷 保彦 番組審議会事務局長
- 4、議 題 テレビ・ラジオ『参議院議員選挙報道』について

5、議事の概要

(1) 議題 テレビ・ラジオ『参議院議員選挙報道』

(2) <委員の主な発言>

- ・「ニュースエコー」の延長かなと思いながら見ました。村松アナが担当で、主婦や若い人達の女性層を対象にして、よりわかりやすかった。
- ・反自民の風に乗って主浜氏が手堅く票を伸ばした。県北の自民切り崩しに成功した・・・など、岩淵記者の分析が鋭いと思ったが、余りにも早く決着したので、選挙結果の分析の方が主体になってしまった。
- ・なぜプロ野球のオールスター後にやったのか。選挙は、国民的イベントであり、二元放送という手もあったと思う。
- ・出口調査が全てを決するような状況であれば、報道のあり方も違ってこなければならぬのではないかと。特に、喜びの声や、選挙事務所からの放送の白々しさは、何でそこで喜んだふりをしなければならないのか、と正直思いました。
- ・当確が出た後、かなり長い時間各市町村の開票速報や、勝利の分析、選挙戦の様態、敗戦の弁などを放送していたが、全国情勢も興味があるので、切り替えて欲しかった。
- ・昔だと、開票のプロセスが楽しみでしたが、今は結果が早くわかってしまって、後付けの講釈をいっぱい言わなければならなくて、大変だろうという気がします。
- ・ラジオは、県立大学の先生が解説していましたが、「自民は51議席を下回るでしょう。民主は伸ばすでしょう。」と、それはそうだというような解説で、もう少しラジオならではの方法があるのではないかと。大塚アナの番組のように、双方向性というか、もう一工夫欲しかった。
- ・村松キャスターの起用が、新鮮でソフトで、鮮烈なイメージがあった。岩淵記者が、淀みなく淡々と信頼性がおけるイメージで、誇張することもなく、真摯な解説で好印象を持った。岩手選挙区の情報が詳細で、市町村別の状況なども伝えられて、惹きつけられる放送でした。
- ・出口調査や、世論調査等である程度の予測がついているわけで、いち早

く当確を出すのも社の方針なのでしょうが、やはり出口調査であって、開票をある程度踏まえないと、おかしいのではないかと。滝沢村の開票結果が出て、全県の開票率19%時点での当確は、非常に妥当だという感じを受けました。

- ・投票率の持つ意味、開票の市町村の数字、それが次の衆議院選挙、知事選、その他にどう影響してくるのかなどのお話も、第三者的な方が解説すれば、もう少し幅を持った構成になったのではないかと。
- ・あなたの一票が政治を変える、という言葉が白々しく思える。選挙なんていらぬのではないかと、思うような気持ちにさせないように、あなたの一票を大事にしますという視点で、ライブ的に盛り上げてもらうのも、ひとつの個性ではないかと。
- ・候補者全部平等にということはそのとおりですが、事実上一騎打ちという選挙では、それぞれの候補者がいかに戦ったかを収録すれば当選に至るプロセスの中で、見る人に訴えるものが出てくるのではないかと。事実だけを淡々となると、各社とも同じようになるので、少し色気というものがあつた方がいいと思つた。
- ・スポーツ放送とパラでやる方法は、あまり賛成できない。時間は長くなくてもいいから、選挙だけの方がいいのではないかと。

<局側>

- ・県内58市町村の開票所、県選管に人を配置し、いち早く中間票、確定票を本社の中継センターに集め、分析をする。あるいは、選挙取材班が積み上げてきた票と比較したりして当確をうちます。IBCも出口調査をします。今回は、およそ1,000人にあたり、700ぐらいの回答を得て、そこでの結果、主浜氏がリードという形で放送上で表明していますが、ゼロ票当確は打たないというスタンスがあります。結果、滝沢村の票を読んだ上での当確になった訳です。結果が出た後、全国の情勢も知りたかつたというご意見はそのとおりだと思います。しかし、当選者が一人いて三人が敗戦するので、敗戦の弁も伝えなければと、時間を引っ張つた経緯があります。
- ・選挙報道というと、どこが一番先に当確を打つかが焦点であるという見方がもあるが、今回IBCはそういうことに惑わされず、ゼロ票当確は打たないというスタンスのもとで、当確を打つた。
- ・出口調査によると、という形での放送が蔓延している状況は否めないと思つている。放送界全体として、この番組審議会で感じておられる意見は、各地方の意見でも、強弱は別にして出ているものと思つます。

系列全体としての意見になるかどうかは分かりませんが、議論して
いかなければと思っています。